

昌一金属支部一六春闘報告

支部書記長 K

昌一金属支部では、今春闘を港合同の地域統一闘争として闘い、地域を背景にして、本社・工場での集会とデモなど現場行動を積み上げて、闘い抜きました。

昨年、我が支部は電力の大再編情勢を見据え、外注化・非正規職化が資本の生き残りをかけた唯一の攻撃であり、それは労働組合を解体することなしに、労働者の団結を徹底的に分断することなしにできないこと、そして我が支部が職場を軸に地域の団結に依拠して闘

えば勝てるということをはッキリさせてきました。福島原発事故を無かったことにしようとする相次ぐ原発再稼働攻撃、そして四月からの電力の全面自由化攻撃は、安倍政権が推進する改憲＝戦争攻撃そのものであり、派遣法改悪と一体の外注化・

総非正規職化という新自由主義政策そのものです。アベノミクスの終焉と官製春闘の崩壊の中で、我が支部の春闘の特徴は大きく二点でした。一つは第一回回答で前

年から半分の二〇〇〇円

回答であったことです。現場では人手が足りず、過重労働なほどに仕事量

があるにも関わらず、各電力からの厳しいコストダウン要請が、同じ仕事量をこなしても売上げ減少となっているのです。もう一つは、団交の席

上で、初めて公にパートの導入を要請してきたことです。我が支部では、一九六〇年に結成された後、一九六九年にそれまであったパート労働者の正社員化を勝ちとりました。

以降、一九八七年国鉄



分割・民営化による国労解体、総評解散、連合結成と一体で派遣法が制定され、製造業をはじめ社会的に非正規雇用が拡大し、今や十割非正規が叫ばれる中にも、全員が正規で、非正規雇用の導入を阻止し続けてきました。

それを経営は、仕事が

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

